

北海学園大、2連覇逃す

アメリカンフットボールの全日本大学選手権東日本代表決定戦準決勝・第34回パインボウルは3日、札幌厚別公園競技場で行われ、北海道代表の北海学園大は東北代表の東北大に18-39で敗れ、2年連続2度目の優勝はならなかった。東北大は2年ぶり23度目の優勝。甲子園ボウルの出場権をかけて12月5日、関東代表と対戦する。

2年連続で同じ顔合わせとなった一戦。北海学園大は立ち上がり得意のパス攻撃を仕掛けるが、東北大守備のプレッシャーもあって歯車がかみ合わず、前半は無得点に終わった。一方東北大は第1QにTDとセーフティー、第2QもTD、FGで加点。北海学園大もDL藤田文慈（3年、札幌手稲高）のQBサックやLB阿部優斗（4年、市立函館高）のロスタックル、LB松本竜輔（3年、旭川龍谷高）のパスカットなどで対抗したが、0-19で折り返した。

北海学園大の反撃は第3Q、東北大に3本目のTDを許して0-26とリードを広げられた1分過ぎから。東北大のキックオフをWR佐藤玲太（4年、札幌光星高）が58ヤードのビッグリターンで敵陣30ヤードへ持ち込んだ。ここから6回の攻撃でゴール前10ヤードまで進め、最後はK岩瀬竜哉（4年、江別・とわの森三愛高）が33ヤードのFGを蹴り込んで3点を返した。

3-32で迎えた第4Q開始直後には、東北大のスナップミスから敵陣26ヤードで攻撃権を得ると、QB河合佑輔（3年、札幌第一高）からWR佐藤玲太へのパスとRB山本遼太（3年、札幌国際情報高）の13ヤードTDランで6点。2点コンバージョンもQB河合からRB山本へパスを決めた。さらに7分過ぎの自陣18ヤードからの攻撃では、ノーハドルからQB





河合がパスを連投して敵陣35ヤードまで持ち込むと、WR寺川隆吾（3年、北海高）へ鮮やかにTDパス。PATのキックも成功して18-39まで追いつけたが、前半の失点が響いて、逆転には届かなかった。

試合後の表彰式でWR佐藤玲太とDL藤田が敢闘賞に選ばれた。

高木幸樹ヘッドコーチは「パスユニットは負けていなかったが、経験不足から攻撃ラインが押し込まれた」と敗因を分析。最終Qの2TDには「山本も寺川も3年生。来年につながる得点になった」と収穫を強調した。敢闘賞のDL藤田は「自分が止めて、チームに流れを持ってこようと思った」とQBサックの場面を振り返り、「学園の守備は粘り強さが持ち味。来年は東北大に勝ちたい」。右親指の負傷をおしてパスを投げ続けたQB河合は「負傷は北大戦で。立ち上がりの東北大のラッシュに圧力を感じたが、パスが通らなかったのは自分の力不足。最後は意地のTDだった」と来季の巻き返しを誓った。TDキャッチを決めたWR寺川も「練習通りにできない場面もあった。来年に向けて心の力を鍛える」と決意していた。